

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

3

学年 教科・科目

工業・課題研究

単位数

3

担当者

久保田・高木・早川・古畑・山下・横沢

1, 教科書・副教材

デザイン技術、インテリア計画、インテリアエレメント生産、インテリア装備、情報技術基礎、工業技術基礎、インテリア製図

2, 科目の目標

- ・デザインに関する課題を設定し、課題の解決をすることができる能力の育成を目標とする。
- ・問題解決の能力や自発的、創造的な学習態度の育成を目標とする。

3, 学習の計画

| | 学習項目 | 学習のねらい | 時数 | 考查範囲 |
|--------|-----------------------------------|---|----|------|
| 前 期 | 4月 ①課題設定 各自で課題を探し決定する | ①工業に関する課題設定 ・ものづくりをテーマにして、生徒の興味、関心、 進路を根ざし設定する。 ・研究計画を立案 | 53 | |
| | 5月 ①計画立案 | ①研究テーマについて、調査、研究、制作 | | |
| | 6月 ①作品制作 | ①研究テーマについて、調査、研究、制作 | | |
| | 7月 ①作品制作 | ①研究テーマについて、調査、研究、制作 | | |
| | 8月 ①作品制作 | ①研究テーマについて、調査、研究、制作 | | |
| | 9月 ①作品制作 ②ワークショップについて | ①制作 ②ワークショップの目的、企画 | | |
| 後 期 | 10月 ①中間まとめ、発表及び作品制作 ②地域との交流 | ①研究成果についての発表準備 ・各種研究発表会で発表 ②学習成果の発表と交流 | 52 | |
| | 11月 ①作品制作 ②地域との交流 | ①制作 ②学習成果の発表と交流 | | |
| | 12月 ①作品制作 ②地域との交流 | ①制作 | | |
| | 1月 ①まとめ・発表 | ①学習成果の発表と交流 ①研究成果をまとめ、発表 | | |
| | 2月 ①専門科展で発表（代表者） | ①来校者による評価 | | |
| | 3月 | | | |

4, 評価の方法・観点

| 評価方法 | 評価の観点 | |
|-----------|----------------|------------------------------|
| | ・課題提出 ・授業態度 | ①関心・意欲・態度 |
| ②思考・判断・表現 | | ・研究テーマに沿った作品のプレゼン表現及び活用ができたか |
| ③技能 | | ・適切に用具を活用することができたか |
| ④知識・理解 | | ・表現に工夫をすることができたか |

5, 学習にあたっての注意とアドバイス

学習成果は『課題研究発表会』で発表する。

R5 年度 学習の手引き（シラバス）

| | | | | | | | |
|---|----|-------|----------|-----|---|-----|----------|
| 3 | 学年 | 教科・科目 | 工業・実習（ブ） | 単位数 | 4 | 担当者 | 高木・古畑・横沢 |
|---|----|-------|----------|-----|---|-----|----------|

1. 教科書・副教材

| |
|--------|
| 工業技術基礎 |
|--------|

2. 科目の目標

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりをとおして、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。 ・木材加工に関する発展的な技術を体験させる。 ・使用材料の性質を理解させ、機械や道具を適切に使用活用させる。（安全教育の徹底） |
|---|

3. 学習の計画

| | 学習項目 | 学習のねらい | 時数 | 考查範囲 |
|----|-------------------------------------|---------------------------------------|----|------|
| 前期 | 4月 ①家具の製作（中・大型作品） ・加工 | ・部材名称と構造の確認 ・部品づくり | 70 | |
| | 5月 ①家具の製作（中・大型作品） ・加工 | ・部材名称と構造の確認 ・部品づくり | | |
| | 6月 ①家具の製作（中・大型作品） ・加工，組立て | ・部品づくり ・木地調整，組立て | | |
| | 7月 ①家具の製作（中・大型作品） ・加工，組立て | ・部品づくり ・木地調整，組立て | | |
| | 8月 ①家具の製作（中・大型作品） ・木地調整，木地着色 | ・木地調整，木地着色 | | |
| | 9月 ①家具の製作（小・中型作品） ・塗装，仕上げ | ・目止め（中塗り），表面研削，仕上塗装 ガラス，建具，金具取り付け | | |
| 後期 | 10月 ①家具の製作（小型作品） ・設計 | ・作品の設計と製図 | 70 | |
| | 11月 ①家具の製作（小型作品） ・加工 | ・部材名称と構造の確認 ・部品づくり | | |
| | 12月 ①家具の製作（小型作品） ・組立て，木地調整，塗装 | ・組立て，木地調整，木地着色，塗装 | | |
| | 1月 ①家具の製作（小型作品） ・塗装，仕上げ | ・目止め（中塗り），表面研削，仕上塗装 ・ガラス，建具，金具取り付け | | |
| | 2月 ②まとめ，発表 | ・インテリア科生徒作品展示・即売会 | | |

4. 評価の方法・観点

| 評価方法 | 評価の観点 | |
|----------------|-----------|---------------------------|
| ・作品完成 ・授業態度 | ①関心・意欲・態度 | ・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか |
| | ②思考・判断・表現 | ・材料や道具を適切に使用活用することができたか |
| | ③技能 | ・実習の内容を理解し，安全に作品製作ができたか |
| | ④知識・理解 | ・材料や道具を適切に使用活用することができたか |

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

| |
|-----------------------------------|
| 学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表させる。 |
|-----------------------------------|

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

| | | | | | | | |
|---|----|-------|----------|-----|---|-----|--------|
| 3 | 学年 | 教科・科目 | 工業・実習（デ） | 単位数 | 4 | 担当者 | 久保田・早川 |
|---|----|-------|----------|-----|---|-----|--------|

1. 教科書・副教材

| |
|--------|
| デザイン技術 |
|--------|

2. 科目の目標

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・造形活動の基礎的な知識と技術を習得させ、実践的な態度の定着を目指す。 ・基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得させる。 ・技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。 |
|---|

3. 学習の計画

| | 学習項目 | 学習のねらい | 時数 | 考查範囲 |
|----|------|--------------------------|----|------|
| 前期 | 4月 | ①文化祭ポスターの制作 ②卒業制作事前調査 | 70 | |
| | 5月 | ①卒業制作構想発表 | | |
| | 6月 | ①卒業制作 | | |
| | 7月 | ①卒業制作 | | |
| | 8月 | ①卒業制作 | | |
| | 9月 | ①卒業制作・中間発表 | | |
| 後期 | 10月 | ①まとめ、発表準備 | 70 | |
| | 11月 | ①卒業制作発表 | | |
| | 12月 | ①卒業展覧会準備 | | |
| | 1月 | | | |
| | 2月 | | | |
| | 3月 | | | |

4. 評価の方法・観点

| 評価方法 | 評価の観点 | |
|----------------|-----------|-------------------------------|
| ・課題提出 ・授業態度 | ①関心・意欲・態度 | ・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか |
| | ②思考・判断・表現 | ・画材を適切に活用することができたか |
| | ③技能 | ・実習の内容を理解し、作品に表現することができたか |
| | ④知識・理解 | ・デザインの役割を理解し、基礎知識を活用することができたか |

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

| |
|---------------------------------|
| 学習成果は『インテリア科生徒作品展・即売会』を中心に発表する。 |
|---------------------------------|

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

| | | | | | | | |
|---|----|-------|------------|-----|---|-----|-------|
| 3 | 学年 | 教科・科目 | 工業・製図（ブ・デ） | 単位数 | 2 | 担当者 | 古畑・保科 |
|---|----|-------|------------|-----|---|-----|-------|

1, 教科書・副教材

| |
|---------|
| インテリア製図 |
|---------|

2, 科目の目標

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・日本産業規格に基づいた製図の基礎や図学について理解させる。 ・製作図や設計図を正しく読み、図面を構想し作成する能力と態度を育てる。 ・レタリング技能検定やトレース技能検定に向けて知識と技術を習得させる。 |
|--|

3, 学習の計画

| | 学習項目 | 学習のねらい | 時数 | 考査範囲 |
|----|----------|---|----|------|
| 前期 | 4月 | ①製図用具の使い方 ②透視図 | 35 | |
| | 5月 | ①透視図 P→住宅の平面図を使い外観の透視図を描く。 D→部屋の中に家具を配置し、透視図を描く。 | | |
| | 6月 | ①室内透視図 P→住宅の平面図を使い外観の透視図を描く。 D→部屋の中に家具を配置し、透視図を描く。部屋の印象やバランスを確認 | | |
| | 7月 | ①室内透視図 P→住宅の平面図を使い外観の透視図を描く。 D→部屋の中に家具を配置し、透視図を描く。部屋の印象やバランスを確認 | | |
| | 8月 | ①室内透視図まとめ ②自主設計 ①簡単な透視図（一点透視法） P・D→部屋の中に家具を配置し、透視図を描く。部屋の印象やバランスを確認 | | |
| | 9月 | ①室内透視図まとめ ②自主設計 ①簡単な透視図（一点透視法） P・D→部屋の中に家具を配置し、透視図を描く。部屋の印象やバランスを確認 ②条件を与え、住宅の間取り、家具配置を考える室内の透視図を描く | | |
| 後期 | 10月 | ①各種コンテスト ②プロダクトデザイン ①製図のコンテストへ参加 ②物のデザイン（スプーン・やかん）をさせ製品機能だけでなく、生活機能など充実が図れるものの提案や理解をさせる。 | 35 | |
| | 11月 | ①各種コンテスト ②プロダクトデザイン ①製図のコンテストへ参加 ②物のデザイン（スプーン・やかん）をさせ製品機能だけでなく、生活機能など充実が図れるものの提案や理解をさせる。 | | |
| | 12月 | ①まとめ ②発表 ①描いた透視図やデザイン作品をプレゼンテーション ②インテリア展で展示 | | |
| | 1月 | | | |
| | 2月 3月 | | | |

4, 評価の方法・観点

| 評価方法 | 評価の観点 | |
|--|-----------|---------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・課題提出 ・授業態度 | ①関心・意欲・態度 | ・課題に積極的に取り組むことができたか |
| | ②思考・判断・表現 | ・課題に対して、より深い思考や判断ができたか |
| | ③技能 | ・課題を的確に表現することができたか |
| | ④知識・理解 | ・課題を追求するためにより多くの知識を理解できたか |

5, 学習にあたっての注意とアドバイス

| |
|--------------------------------|
| 学習成果は『インテリア科生徒作品展・即売会』にて発表させる。 |
|--------------------------------|

R5 年度 学習の手引き（シラバス）

| | | | | | | | |
|---|----|-------|----------------|-----|---|-----|--------|
| 3 | 学年 | 教科・科目 | 工業・情報技術基礎（プ・デ） | 単位数 | 2 | 担当者 | 古畑・久保田 |
|---|----|-------|----------------|-----|---|-----|--------|

1, 教科書・副教材

| |
|---------|
| 新情報技術基礎 |
|---------|

2, 科目の目標

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・課題や目標に応じて、情報手段を適切に活用する能力を育成する。 ・情報の様々な表現方法を習得し、情報を発信する実践的な態度を育成する。 ・望ましい情報社会の創造に参画する態度を育成する。 |
|---|

3, 学習の計画

| | 学習項目 | 学習のねらい | 時数 | 考查範囲 |
|--------|----------|-----------------------------|----|-------------------------|
| 前 期 | 4月 | ①1・2年次の復習 ②到達目標の確認 | 35 | 静止画像処理実習 |
| | 5月 | ①静止画像処理実習 ②著作権・工業所有権 | | |
| | 6月 | ①静止画像処理実習 ②著作権・工業所有権 | | 静止画像処理実習 実技テスト（授業内） |
| | 7月 | ・プレゼンテーション導入 （情報モラル・ネット） | | |
| | 8月 | ・プレゼンテーション導入 （情報モラル・ネット） | | |
| | 9月 | ・プレゼンテーション導入 （情報モラル・ネット） | | |
| 後 期 | 10月 | ・プレゼンテーション実習 （情報モラル・ネット） | 35 | 情報モラル・ネット 実技テスト（授業内） |
| | 11月 | ・3DCADの基本操作 | | |
| | 12月 | ・3DCADの基本操作 | | |
| | 1月 | ①まとめ、発表 | | |
| | 2月 3月 | | | |

4, 評価の方法・観点

| 評価方法 | 評価の観点 | |
|----------------|-----------|---------------------------|
| ・小テスト ・授業態度 | ①関心・意欲・態度 | ・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか |
| | ②思考・判断・表現 | ・計画通りに発表することができたか |
| | ③技能 | ・著作権と工業所有権の関連法規について理解できたか |
| | ④知識・理解 | ・情報を発信するための要素を理解できたか |

5, 学習にあたっての注意とアドバイス

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表させる。 |
|--|

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

| | | | | | | | |
|---|----|-------|-----------------|-----|---|-----|----|
| 3 | 学年 | 教科・科目 | 工業・インテリアエレメント生産 | 単位数 | 1 | 担当者 | 高木 |
|---|----|-------|-----------------|-----|---|-----|----|

1. 教科書・副教材

| |
|--------------|
| インテリアエレメント生産 |
|--------------|

2. 科目の目標

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・生産技術の能率化木材の基本的な性質について理解させる。 ・品質、安全、衛生管理について理解させる。 ・金属加工及び成形加工について理解させる。 |
|--|

3. 学習の計画

| | 学習項目 | 学習のねらい | 時数 | 考查範囲 | |
|----|----------------------|--|----|--|-----------------------------|
| 前期 | 4月 | ①生産技術 | 18 | 生産技術 生産技術の向上化 | |
| | 5月 | ①生産技術の向上化 ※定期考査実施 | | | ①プログラミング ・NCのプログラミング |
| | 6月 | ①加工の能率化 ※定期考査実施 | | ①プログラミング ・プログラミングと生産工程 ※学習内容の定着度を確認 | 加工の能率化 |
| | 7月 | ①生産管理 | | ①生産技術 ・NC工作機の操作と作業能率の理解 ※学習内容の定着度を確認 | |
| | 8月 | ①品質管理 | | ①生産計画 ・工程管理 | |
| 9月 | ①安全・衛生管理 ②家具生産の工程 | ①ISOに準じた品質管理と標準化 ①労働基準法に準じた安全衛生管理 ②ライン生産化と製作工程 | | | |
| 後期 | 10月 | ①金属材料の種類 | 17 | 生産管理 安全・衛生管理 家具生産の工程 金属材料の種類 金属製品と規格 | |
| | 11月 | ①金属製品と規格 ※定期考査実施 | | | ①金属材料の種類と性質 ※学習内容の定着度を確認 |
| | 12月 | ①金属の加工の基礎 | | ①金属製品の規格 ※学習内容の定着度を確認 | 金属の加工の基礎 成形加工法 |
| | 1月 | ①成形加工法 ※定期考査実施 | | ①加工の基礎 (切削, 鋳造, 溶接, 塑性, 測定器具) | |
| | 2月 | | | ①成形加工の種類 ・一次加工と二次加工 ※学習内容の定着度を確認 | |
| 3月 | | | | | |

4. 評価の方法・観点

| 評価方法 | 評価の観点 | |
|-----------------|-----------|--------------------------------|
| ・定期テスト ・授業態度 | ①関心・意欲・態度 | ・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか |
| | ②思考・判断・表現 | ・工作機、品質、安全管理、材料について理解することができたか |
| | ③技能 | ・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか |
| | ④知識・理解 | ・加工の能率化と生産管理について理解することができたか |

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

| |
|--|
| |
|--|

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

| | | | | | | | |
|---|----|-------|-----------|-----|---|-----|----|
| 3 | 学年 | 教科・科目 | 工業・デザイン技術 | 単位数 | 2 | 担当者 | 早川 |
|---|----|-------|-----------|-----|---|-----|----|

1. 教科書・副教材

| |
|---|
| デザイン技術 インターネットを利用して参考資料検索など、情報技術機器を利用する。 |
|---|

2. 科目の目標

| |
|---|
| 形態や色彩を用いた意思伝達の基本的な知識を獲得し、目的をもったデザイン活動を計画・提案できる、工業人として望ましい美的感性や創造的感性を持った生徒を育成する。 |
|---|

3. 学習の計画

| | | 学習項目 | 学習のねらい | 時数 | 考查範囲 |
|----|----------|--|--|----|---|
| 前期 | 4月 | デザインの基礎 (生活用具のデザイン、伝えるデザイン、デザイナーに求められるもの) | ・用と美、計画手順、意匠権の観点からデザイナーに求められるものを理解させ考察させる。 | 35 | コンピュータ・グラフィックスの制作を通して、色や形の持つコミュニケーション能力を実際に認識・活用する学習をする。 コンピュータ・グラフィックスの制作を通して、色彩理論を実際に認識・活用する学習をする。 |
| | 5月 | デザインの基礎 (色彩とは、色彩研究、色彩の分類色) | ・光と色の関係、目の構造を理解させる。 ・トーン性格を理解させ、実際の活用法を演習。 | | |
| | 6月 | 立体、マンセルのカラーシステム、色名、色の対比、感情、連想など) | ・カラーシステムの必要性を理解させ、実際の活用方法を演習させる。 ・色の対比によって起こる目の錯覚や色の与える印象を効果的に活用した配色計画を理解させ、実習を通じ応用力を養わせる。 | | |
| | 7月 | プロダクトデザイン (生活とプロダクトデザイン、プロダクトデザインにおける機能と造形) | ・様々なプロダクトデザインが使用者と使用環境との関係性から成り立っている事を理解させ、プロダクトデザイナーの立場を知る。 | | |
| | 8月 9月 | | | | |
| 後期 | 10月 | 環境構成デザイン (都市の環境、計画と街並み、インテリアとは、インテリアの目的、インテリアの歴史、インテリアデザインの計画、空間の計画、パブリック空間の計画、建築とインテリア、住宅) | ・インテリアへの人体寸法の応用、安全について学習させる。 ・建築物とインテリアの関係性を理解させながら、つくられる目的やインテリア、建築のもつ意味や本質、計画の進め方について理解させる。 | 35 | ・AI、PSD、JPEG、PDF、EPS、GIF、BMPの一般企業やデザイン業界で使用頻度の高い保存形式に触れる。 ・コンピュータ・グラフィックスの制作を通して、理論を実際に認識・活用する学習する。 |
| | 11月 | ビジュアルデザイン (ビジュアルコミュニケーションデザインとは、視覚伝達とその要素、構成要素とは、イラストレーション) | ・視覚伝達効果の重要性を理解させ、イラストレーションや文字のデザインに取り組みせながら、DTPの基礎を学習させる。 | | |
| | 12月 | グラフィックでデザインとは (コンピュータによるデザイン、広告デザイン、編集デザイン、映像デザイン) | ・より深くCGソフトの機能を理解させ、効果的に活用できる技能を高めさせ。 ・各画像保存形式の特徴や解像度に対応する実習を通して深めさせ、用途に応じて適切な判断ができる能力を養わせる。 | | |
| | 1月 | ・写真・印刷 (デザインと写真、デザインと印刷) | 写真による視覚伝達の重要性を理解させながら、印刷による表現の変化について学習させる。 | | |
| | 2月 3月 | | | | |

4. 評価の方法・観点

| 評価方法 | 評価の観点 | |
|----------------|------------|-------------------------------|
| ・課題提出 ・授業態度 | ① 関心・意欲・態度 | ・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか |
| | ② 思考・判断・表現 | ・内容について理解し、活用することができたか |
| | ③ 技能 | ・適切な用具と技法を用いて表現することができたか |
| | ④ 知識・理解 | ・デザインの役割を理解し、基礎知識を活用することができたか |

5. 学習にあたっての注意とアドバイス

| |
|----------------------------------|
| 学習成果は『インテリア科生徒作品展・即売会』を中心に発表させる。 |
|----------------------------------|

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

| | | | | | | | |
|---|----|-------|-------------|-----|---|-----|-----|
| 3 | 学年 | 教科・科目 | 工業・デザイン技術演習 | 単位数 | 2 | 担当者 | 久保田 |
|---|----|-------|-------------|-----|---|-----|-----|

1、教科書・副教材

| |
|--------|
| デザイン技術 |
|--------|

2、科目の目標

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・デザイン技術に関する基本的な知識と技術を習得させる。 ・実際に創造し応用する思考と能力を育てる。 |
|--|

3、学習の計画

| | | 学習項目 | 学習のねらい | 時数 | 考査範囲 |
|----|-----|------------------------------------|--|----|------|
| 前期 | 4月 | ①デザインの基礎 ・デザインとは ・著作権法について | ①デザインの基礎について ・著作権法について | 35 | |
| | 5月 | ①高校生デザイン選手権 | V. I. について | | |
| | 6月 | ①高校生デザイン選手権 | ①プレゼンテーション | | |
| | 7月 | ①公募展に向けた作品製作 | 希望進路に合わせ、公募展を選択する | | |
| | 8月 | ①公募展に向けた作品製作 | 希望進路に合わせ、公募展を選択する | | |
| 後期 | 9月 | ①公募展に向けた作品制作。 | ①希望進路に合わせ、公募展を選択する。 | | |
| | 10月 | ①プロダクトデザイン ・3DCAD (Solid Works) | ①工業デザインの製作プロセス ・3Dプリンターを用いたモックアップの作成。 | 35 | |
| | 11月 | ①プロダクトデザイン ・鋳造方法による材質置換 | ①作品制作 ・鋳造技法や木以外のクラフト素材 (金属やガラス) の性質を理解する | | |
| | 12月 | | ①展示方法について検討。 | | |
| | 1月 | ①まとめ、発表 | | | |
| | 2月 | | | | |
| 3月 | | | | | |

4、評価の方法・観点

| 評価方法 | 評価の観点 | |
|--|-----------|-------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・課題提出 ・授業態度 | ①関心・意欲・態度 | ・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか |
| | ②思考・判断・表現 | ・内容について理解し、活用することができたか |
| | ③技能 | ・適切な用具と技法を用いて表現することができたか |
| | ④知識・理解 | ・デザインの役割を理解し、基礎知識を活用することができたか |

5、学習にあたっての注意とアドバイス

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表させる。 |
|--|

R5 年度 学習の手引き（シラバス）

| | | | | | | | |
|---|----|-------|-----------|-----|---|-----|-----|
| 3 | 学年 | 教科・科目 | 工業・情報技術演習 | 単位数 | 2 | 担当者 | 久保田 |
|---|----|-------|-----------|-----|---|-----|-----|

1、教科書・副教材

情報技術基礎

2、科目の目標

- ・ 課題や目標に応じて、情報手段を適切に活用する能力を育成する。
- ・ 情報の様々な表現方法を習得し、情報を発信する実践的な態度を育成する。
- ・ 望ましい情報社会の創造に参画する態度を育成する。

3、学習の計画

| | | 学習項目 | 学習のねらい | 時数 | 考查範囲 |
|--------|---------|------------------------------------|--|----|-------------------------|
| 前 期 | 4月 | ①静止画像処理実習 ②著作権・工業所有権 ※定期考査実施 | ①静止画像処理ソフトを活用した画像の加工 ②著作権と工業所有権の関連法規 ※学習内容の定着度を確認 | 35 | 静止画像処理実習 |
| | 5月 | ①静止画像処理実習 ②著作権・工業所有権 ※定期考査実施 | ①静止画像処理ソフトを活用した画像の加工 ②著作権と工業所有権の関連法規 ※学習内容の定着度を確認 | | |
| | 6月 | ・プレゼンテーション導入 (情報モラル・ネット) | ・プレゼンテーションソフトの活用方法 (情報の収集、判断、表現、処理、創造、発信伝達) | | |
| | 7月 | ・プレゼンテーション導入 (情報モラル・ネット) | ①・プレゼンテーションソフトを活用した情報発信の実習（情報の収集、判断、表現、処理、創造、発信伝達） | | |
| | 8月 | ・プレゼンテーション導入 (情報モラル・ネット) | ①・プレゼンテーションソフトを活用した情報発信の実習（プレゼンテーションの実習をとおして、相互評価を体験させる） | | |
| 後 期 | 9月 | （情報モラル・ネット） | | | 35 |
| | 10月 | ・プレゼンテーション実習 (情報モラル・ネット) | ①プレゼンテーションソフトを活用して情報発信の実習（情報の収集、判断、表現、処理、創造、発信伝達） | 35 | 情報モラル・ネット 実技テスト（授業内） |
| | 11月 | ※定期考査実施 | ※学習内容の定着度を確認 | | |
| | 12月 | ①動画作成実習 | ①動画編集ソフトの使い方 インテリア科の紹介動画を分担して作成 (情報の収集、判断、表現、処理、創造、発信伝達) | | |
| | 1月 | ↓ | | | |
| | 2月 | ①動画作成実習 | ①インテリア科の紹介動画を分担して作成（情報の収集、判断、表現、処理、創造、発信伝達） | | |
| 3月 | ②まとめ、発表 | ②インテリア科生徒作品展示・即売会 | | | |

4、評価の方法・観点

| 評価方法 | 評価の観点 | |
|--|-----------|----------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題提出 ・ 授業態度 | ①関心・意欲・態度 | ・ 積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか |
| | ②思考・判断・表現 | ・ 計画通りに発表することができたか |
| | ③技能 | ・ 著作権と工業所有権の関連法規について理解できたか |
| | ④知識・理解 | ・ 情報を発信するための要素を理解できたか |

5、学習にあたっての注意とアドバイス

- ・ 学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表させる。

R5 年度 学習の手引き（シラバス）

| | | | | | | | |
|---|----|-------|---------|-----|---|-----|----|
| 3 | 学年 | 教科・科目 | 工業・伝統工芸 | 単位数 | 2 | 担当者 | 横沢 |
|---|----|-------|---------|-----|---|-----|----|

1、教科書・副教材

| |
|--------|
| 工業技術基礎 |
|--------|

2、科目の目標

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりをとおして，工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。 ・木材加工に関する伝統工芸的な技術を体験させる。 ・使用材料の性質を理解させ，機械や道具を適切に使用活用させる。（安全教育の徹底） |
|---|

3、学習の計画

| | 月 | 学習項目 | 学習のねらい | 時数 | 考查範囲 |
|----|----------------|-----------------------------|--|----|------|
| 前期 | 4月 | ①伝統工芸作品の製作 ・設計 | ①伝統工芸作品の設計 ・作業と安全を確認 | 35 | |
| | 5月 | ②伝統工芸作品の製作 ・木取り，素材加工 | ②素材の製作 ・設計寸法に沿って，木取りと素材の加工 | | |
| | 6月 | ③伝統工芸作品の製作 ・木地仕上げ ・塗装 | ③木地仕上げ，重ね塗装 | | |
| | 7月 | ④伝統工芸作品の製作 | ④重ね塗装 | | |
| | 8月 | ①伝統工芸作品の製作 ②伝統工芸作品の製作 | ①重ね塗装 ②表面研削，仕上げ | | |
| 後期 | 9月 | ③伝統工芸作品の製作 | ③木地表面の仕上げは自由とし作品を製作する ・作業と安全を確認させる。 | 35 | |
| | 10月 | ④伝統工芸作品の製作 | ④木地表面の仕上げは自由とし作品を製作する ・作業と安全を確認させる。 | | |
| | 11月 | ⑤伝統工芸作品の製作 | ⑤木地表面の仕上げは自由とし作品を製作する ・作業と安全を確認させる。 | | |
| | 12月 | ①伝統工芸作品の製作 | ①仕上げ | | |
| | 1月 2月 3月 | ②まとめ，発表 | | | |

4、評価の方法・観点

| 評価方法 | 評価の観点 | |
|--|-----------|---------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・作品提出 ・授業態度 | ①関心・意欲・態度 | ・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか |
| | ②思考・判断・表現 | ・伝統工芸を理解し表現することができたか |
| | ③技能 | ・実習の内容を理解し，安全に作品製作ができたか |
| | ④知識・理解 | ・材料や道具を適切に使用活用することができたか |

5、学習にあたっての注意とアドバイス

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・題材は漆の重ね塗り研ぎ出し，曲げ木細工工芸品へぎ板工芸品などを参考に講座を進める。 ・実習（必修）の作品に，この講座の伝統工芸的要素を取り入れても良い。 |
|--|

R5 年度 学習の手引き（シラバス）

| | | | | | | | |
|---|----|-------|---------|-----|---|-----|----|
| 3 | 学年 | 教科・科目 | 工業・木材工芸 | 単位数 | 2 | 担当者 | 古畑 |
|---|----|-------|---------|-----|---|-----|----|

1、教科書・副教材

| |
|--------|
| 工業技術基礎 |
|--------|

2、科目の目標

| |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりをとおして、工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。 ・木材加工に関する工芸的な技術を体験させる。 ・使用材料の性質を理解させ、機械や道具を適切に使用活用させる。（安全教育の徹底） |
|---|

3、学習の計画

| | | 学習項目 | 学習のねらい | 時数 | 考査範囲 |
|--------|-----|-----------------------------------|---|----|------|
| 前 期 | 4月 | ①作品の設計 | ①小物題材の設計 ・作業と安全を確認 ・木取り | 35 | |
| | 5月 | ②作品の加工 | ②素材の加工 | | |
| | 6月 | ③作品表面のデザイン | ③彫刻図案（デザイン）の計画 ・作業と安全を確認 | | |
| | 7月 | ①作品表面の彫刻 | ①彫刻図案（デザイン）の計画 ・作業と安全を確認 | | |
| | 8月 | ②作品表面の彫刻 | ②彫刻図案（デザイン）の計画 ・作業と安全を確認 | | |
| | 9月 | ③作品表面の彫刻 | ③彫刻図案（デザイン）の彫刻 | | |
| 後 期 | 10月 | ④作品表面の仕上げ（中塗り） ⑤レーザークラフト機による描画 | ④木地仕上げ、木地着色、塗装（中塗り） ⑤レーザー加工するデザインの計画 | 35 | |
| | 11月 | ⑥レーザークラフト機による描画 | ⑥レーザー加工による描画 ・仕上げは自由 | | |
| | 12月 | ⑦作品表面の仕上げ | ⑦上げ塗装 | | |
| | 1月 | ①まとめ、発表 | ①インテリア科生徒作品展示・即売会 | | |
| | 2月 | | | | |
| | 3月 | | | | |

4、評価の方法・観点

| 評価方法 | 評価の観点 | |
|--|-----------|----------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・作品提出 ・授業態度 | ①関心・意欲・態度 | ・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか |
| | ②思考・判断・表現 | ・材料や道具、機械を適切に使用活用することができたか |
| | ③技能 | ・実習の内容を理解し、安全に作品製作ができたか |
| | ④知識・理解 | ・工芸的表現の作品技術を駆使することができたか |

5、学習にあたっての注意とアドバイス

| |
|--|
| <p>実習（必修）の作品に、この講座の木材工芸的要素を取り入れても良い。</p> |
|--|

R5 年度 学習の手引き（シラバス）

| | | | | | | | |
|---|----|-------|----------------|-----|---|-----|----|
| 3 | 学年 | 教科・科目 | 工業・工業デザイン（普・イ） | 単位数 | 2 | 担当者 | 保科 |
|---|----|-------|----------------|-----|---|-----|----|

1、教科書・副教材

色彩検定3級公式テキスト（公益社団法人色彩検定協会）

2、科目の目標

- ・色彩に関する基礎的な知識や用語について理解させる。
- ・PCCSに基づいた配色調和に関する基礎的な理論について理解させる。
- ・実際に色彩を活用することができる実践力を育成する。

3、学習の計画

| | 月 | 学習項目 | 学習のねらい | 時数 | 考查範囲 |
|--------|----------|-----------------------------------|---|--|---|
| 前 期 | 4月 | ①カラーシステム | ①色の分類や、表色系の必要性について ・PCCSについて | 35 | <ul style="list-style-type: none"> ・光と色 ・色の表示 |
| | 5月 | ①カラーシステム | ①色の分類や、表色系の必要性について ・PCCSについて | | |
| | 6月 | ①色名 ②配色調和の実習 ※定期考查実施 | ①色を表示するための言葉について ・JISの色名、慣用色名 ②形容詞を題材にした配色調和の実習 ※定期テストを実施し、知識の定着度を確認 | | |
| | 7月 | ①光と色 | ①色の見える原理について ・科学的、生理学的な立場から理解させる。 | | |
| | 8月 | ①色彩心理 | ・実験を多く取り入れて理解を促す。 | | |
| | 9月 | ①色彩心理（2） ②色彩調和 ※定期テスト実施 | ①色から受ける心理的な効果について ・色彩の感情や色から受けるイメージ ・傾向があることを統計学的な立場から理解させる。 ②色の対比や同化現象、面積効果について ・配色の基本的な考え方 ・色相やトーンを手がかりにした配色 ※定期テストを実施し、知識の定着度を確認 | <ul style="list-style-type: none"> ・色彩心理 ・色彩調和 | |
| 後 期 | 10月 | ①色彩調和（2） | ①配色の基本的な考え方について ・明度や彩度を手がかりにした配色 ・配色の基本的用語 | 35 | |
| | 11月 | ①ファッション ②インテリア・環境 ※検定実施 | ①ファッションとカラーの関わりについて ②インテリアにおける色彩効果について ※文部科学省後援色彩検定実施 | | |
| | 12月 | ①配色調和のまとめ | ①配色調和のプレゼンテーション実習 | | |
| | 1月 | ①配色調和のまとめ | ①配色調和のプレゼンテーション実習 | | |
| | 2月 3月 | | | | |

4、評価の方法・観点

| 評価方法 | 評価の観点 | |
|---|-----------|-----------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・定期考查 ・課題提出 ・授業態度 | ①関心・意欲態度 | ・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか |
| | ②思考・判断・表現 | ・各単元について理解し、表現できたか |
| | ③技能 | ・学習した知識を駆使して、作品に表現することができたか |
| | ④知識・理解 | ・色彩に関する知識や用語について理解することができたか |

5、学習にあたっての注意とアドバイス

R5 年度 学習の手引き（シラバス）

| | | | | | | | |
|---|----|-------|---------|-----|---|-----|----|
| 3 | 学年 | 教科・科目 | 工業・建築基礎 | 単位数 | 2 | 担当者 | 古畑 |
|---|----|-------|---------|-----|---|-----|----|

1、教科書・副教材

| |
|------------------------------|
| インテリア計画、インテリアエレメント生産、インテリア装備 |
|------------------------------|

2、科目の目標

| |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・インテリア設計の観点から、建築に必要な基礎的な知識を深化させる。 ・建築や室内設計に必要な知識を習得させ図面や模型を制作、デザイン力・プレゼンテーション力など表現する力を身に付けさせる |
|--|

3、学習の計画

| | | 学習項目 | 学習のねらい | 時数 | 考查範囲 |
|--------|----------------|-------------------------|---|----|------|
| 前 期 | 4月 | ①インテリア計画 ②インテリアエレメント | ①室内計画, 照明・換気 ②材料の種類・加工 | 35 | |
| | 5月 | ①インテリア計画 ②インテリアエレメント | ①室内外の環境, 人体と人体寸法 ②エレメント, 生産技術・管理 | | |
| | 6月 | ①インテリア装備 ②建築法規 | ①インテリアの構造と施工 ②インテリアの装備と関係法規 | | |
| | 7月 | ①インテリア装備 ②建築法規 | ①建物内外の装備 ②インテリア装備と関係法規 | | |
| | 8月 | ①建築製図 | ①住宅の平面図, 立面図, 断面図の模写 理解を深める。 | | |
| 後 期 | 9月 | ①建築製図 ②建築設計 | ①住宅の平面図, 立面図, 断面図の模写 ②透視図を描かせ, 部屋の印象やバランスを確認 ①条件を与え, 住宅の間取りを考え, 平面図, 断面図, 立面図を考える。室内の透視図を描く ②グループで敷地を想定し模型の制作 | 35 | |
| | 10月 | ①建築設計 | ①グループ制作 住宅, 景観模型制作 | | |
| | 11月 | ①建築設計 | ①グループ制作 住宅, 景観模型制作 | | |
| | 12月 | ①まとめ・発表 | ①各グループ発表 ②インテリア科生徒作品で展示 | | |
| | 1月 2月 3月 | | | | |

4、評価の方法・観点

| 評価方法 | 評価の観点 | |
|--|-----------|----------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・課題提出 ・授業態度 | ①関心・意欲・態度 | ・課題・授業に積極的に取り組むことができたか |
| | ②思考・判断・表現 | ・インテリア全般を理解し、模型製作表現ができたか |
| | ③技能 | ・課題などに意欲的に取り組み、表現することができたか |
| | ④知識・理解 | ・インテリア全般に関する基礎知識を理解できたか |

5、学習にあたっての注意とアドバイス

| |
|--|
| |
|--|

R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

| | | | | | | | |
|---|----|-------|-------------|-----|---|-----|----|
| 3 | 学年 | 教科・科目 | 工業・CAD 製図演習 | 単位数 | 2 | 担当者 | 保科 |
|---|----|-------|-------------|-----|---|-----|----|

1、教科書・副教材

優しく学ぶ Jw_CAD シリーズ Jw_CAD6

2、科目の目標

- ・ 課題や目標に応じて情報手段を適切に活用することのできる能力を育成する。
- ・ 基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得させる。
- ・ 技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

3、学習の計画

| | | 学習項目 | 学習のねらい | 時数 | 考査範囲 |
|----|-----|---------------------------------|---|----|------|
| 前期 | 4月 | ①製図の基礎知識の確認 ②到達目標の明確化 | ① I S O, J I S の基本製図法の確認 (投影法) ・ CAD 図面の基本 | 35 | |
| | 5月 | ① CAD 製図の導入 | ②到達目標を定める。 ① CAD 製図の I S O, J I S 規格について | | |
| | 6月 | ① CAD ソフトの基本操作 | ① CAD ソフトの基本操作 | | |
| | 7月 | ① CAD ソフトの活用 | (グリッド, 端点, 交点, 図の表現方法) ① 第三角法投影図及びその他の投影図法を理解。 | | |
| | 8月 | ① 3D 部品の作成と基本登録 | ① 部品の CAD 化 ・ 三次元部品登録の作成方法を理解。 | | |
| | 9月 | ① 3D 部品登録の活用 ② CAD 製図への応用 | ① 三次元登録部品の表現法について ② CAD 製図と 3D 部品の表現方法について | | |
| 後期 | 10月 | ① 3D 部品の画像処理化 ※建築 CAD 検定 3 級 | ① LAN, WAN, インターネットの発展利用について ※建築 CAD 検定 3 級より成熟度確認 | 35 | |
| | 11月 | ① 住宅 CAD 製図の導入 | ① コピー製図により住宅の CAD 製図 ・ オリジナル住宅設計のプラン方法 | | |
| | 12月 | ① 住宅設計の基本 ② 室内表現 | ① オリジナル住宅設計の平面図の完成。 ② インテリアの表現手法 | | |
| | 1月 | ① CAD 図面とプレゼンテーション ② 発表会 | ① 作成した住宅プランのプレゼンテーション (参加者の評価型プレゼンテーション) | | |
| | 2月 | | | | |
| | 3月 | | | | |

4、評価の方法・観点

| 評価方法 | 評価の観点 | |
|--|------------|------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題提出 ・ 授業態度 ・ 検定試験 | ① 関心・意欲・態度 | ・ 積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか |
| | ② 思考・判断・表現 | ・ CAD ソフトを用いて自分の考えを具体化できたか |
| | ③ 技能 | ・ 構造や製作法を考えて表現することができたか |
| | ④ 知識・理解 | ・ CAD ソフトの基本的な操作を理解することができたか |

5、学習にあたっての注意とアドバイス